View metadata, citation and similar papers at core.ac.uk
brought to you by CORE

植草学園短期大学研究紀要　第15号　5～10頁（2014）

福祉分野における人材育成に関する産業界ニーズ調査研究（その１）

Needs Surveillance Study of Industry World on Human Resources Development in the Welfare Field　Part 1

今井　訓子[1]　川村　博子[1]　漆澤　恭子[1]　黒田　静江[1]
松本　和江[2]　石井やよい[2]　安田　宣子[2]　橋本三枝子[2]
星野　恵子[2]

専門力・実践力・人間力に関する産業界のニーズを探り、今後の教育改善に反映させること等を目的として、関係団体の協力を得て葉書アンケート調査及びヒアリング調査を実施した。その結果、コミュニケーション力、ストレスコントロール力は社会人基礎力として必要とされる力であるが、福祉分野においては、さらに「障害や高齢という一人ひとりの特性や環境に応じた支援の必要性を知り行う力」という専門性を備えた職業能力が求められていることなどが明らかになった。

キーワード：人材育成、介護福祉士、保育士

Ⅰ　目的

本学は地域介護福祉専攻と児童障害福祉専攻の２専攻を持つ福祉学科を有する短期大学である。卒業生の殆どは介護福祉士および保育士・幼稚園教諭として就業している。

大学・短大では、社会に適応できる人材を育てることが必要であり、そのためには就業時における産業界のニーズを明らかにする必要がある。このためとりわけ専門力・実践力・人間力等に関する産業界のニーズを探り、今後の教育改善に反映させるとともに、研修や仕事と家庭の両立支援等を含めた職員のキャリア形成支援の実態を探ることを目的として本調査研究を実施した。

Ⅱ　葉書アンケート調査

１　調査対象・方法

千葉県の高齢・障害者関連施設（以下「地域」）５団体[1)]及び保育・幼稚園・障害児関連施設（以下「児童」）６団体[2)]の協力を得て、平成25年２月に、団体傘下施設に自記式質問紙調査による葉書アンケート調査を郵送により実施した。

1）千葉県老人保健施設協会，千葉市老人福祉施設協議会，千葉県高齢者福祉施設協会，千葉県福祉医療施設協議会，千葉県身体障害者施設協議会
2）千葉県児童福祉施設協議会，千葉県知的障害者福祉協会，千葉県保育協議会，千葉市民間保育園協議会，全千葉県私立幼稚園連合会，千葉市幼稚園協会

２　調査結果

１）回収率

「地域」44.6％（506施設）、「児童」47.2％（1,416施設）で、施設全体では47.2％であった。

２）調査結果

①　養成校に期待するキャリア形成のために必要な教育

コミュニケーション能力の養成が78.7％（「地域」83.8％、「児童」77.2％）と最多、次いで専門力の養成67.2％（「地域」68.6％、「児童」66.7％）、ストレス・コントロール力の養成は全体で35.0％（「地域」43.1％、「児童」32.5％）と「地域」でやや高かった。

また、その他については社会人としての一般常識を挙げたものが殆どであった。

1 植草学園短期大学福祉学科
2 植草学園短期大学キャリア支援課

② 施設が行っている人材育成・キャリア形成養育

研修が最多で89.2％（「地域」91.7％、「児童」88.5％）、資格取得のための支援を行っている施設は34.5％（「地域」66.7％、「児童」24.5％）で、かなり相違が見られた。

仕事と家庭の両立支援を行っている施設は両施設とも半数を切っている。その他については「地域」ではエルダー制、チューター制があげられていた。

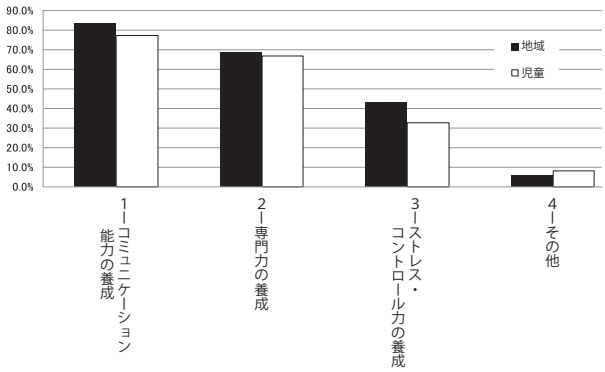


図１：養成校に期待するキャリア形成のために必要な教育

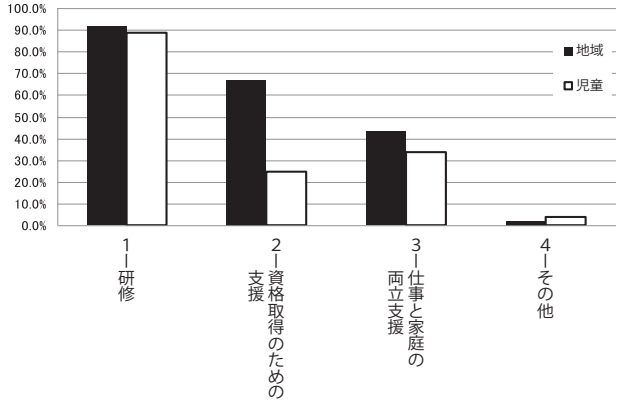


図２：施設が行っている人材育成・キャリア形成教育

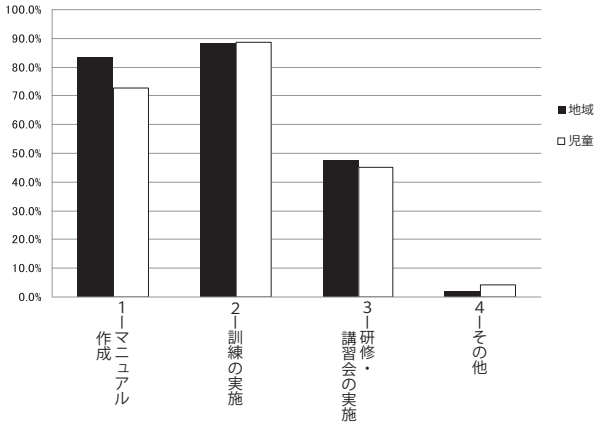


図３：災害対応のための準備

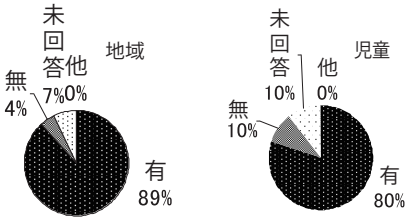


図４：有資格者の再雇用意向

③ 災害対応のための準備

訓練の実施が最多で88.6％（「地域」88.2％「児童」88.7％）、次いでマニュアルの作成75.1％（「地域」83.3％「児童」72.6％）であった。「児童」では地震に対する訓練を行っているところがあるが、「地域」では災害は火災を想定しており、避難訓練も火災に対するものであった。地震に対しては現在対策を講じているとのコメントもあった。研修・講習会の実施は全体の50％をきっていた。そのほか、食糧、水の備蓄や非常用機材の準備などをあげていた。

④ 離職経験（有資格者）等の再雇用の意向

再雇用の意向有りが79.3％（「地域」88.2％、「児童」76.6％）であった。

両施設とも再雇用に積極的であった。子育てを終えて復帰することを応援したいと回答している施設も多かった。

３ 考察

本学が平成22年に行った卒業生就業先施設への調査結果、養成校に要望することとして挙げられたのは「コミュニケーション能力」と「社会人としての一般常識やモラル」であった。また、専門的な能力として「児童」では実践力、発達段階などの知識を求めており、「地域」では人間性が大切であり、知識・技術はOJTで育てていくとの回答があった。

① 養成校に期待するキャリア形成のために必要な教育としては、前回同様コミュニケーション能力、次いで専門力の養成が必要とされた。職場の上司・先輩・同僚、利用者とその家族等、関係機関の専門職とのコミュニケーションが大切であり、学生時代に世代間の会話が少ない層の特徴が指摘されたと考えられる。同時に専門力も必要とされている実態が明らかになり、今後、具体的にどのようなコミュニケーション能力・専門力が必要とされるのかを詳細に探る必要がある。ストレス・コントロール力の養成はこの２つに比較して

少なかった。しかし、先の施設調査と同時に行った卒業生調査では、人間関係から来るストレスが就業継続に支障を来たしており、就業の継続のために必要な力と考えられる相談体制や自己肯定感等に関しての実態把握も必要である。

② 両施設ともに研修に力を入れている。研修内容の詳細等は明らでないため更に情報収集が必要である。資格取得後の就労が一般的な「児童」と無資格の就労も多い「地域」では資格取得のための支援に差が見られた。介護職にはヘルパー資格で就職する者も多く、介護福祉士資格取得のための支援が不可欠であると考えられ、幼稚園・保育園では有資格者が採用されているため違いが出たといえる。仕事と家庭の両立のための支援の充実は就業継続のために必須の要件であり、今後更に詳細な実態調査が必要である。

③ 災害時のための準備としては訓練の実施、次いでマニュアルの作成であった。今後は全職員への効果的な浸透方法や、災害対応のための教育機関への要請について探る必要がある。

Ⅲ　ヒアリング調査

1　調査対象・方法

葉書アンケート調査の結果、訪問調査への了解を得られた「地域」124施設、児童388施設にヒアリング調査を実施した。

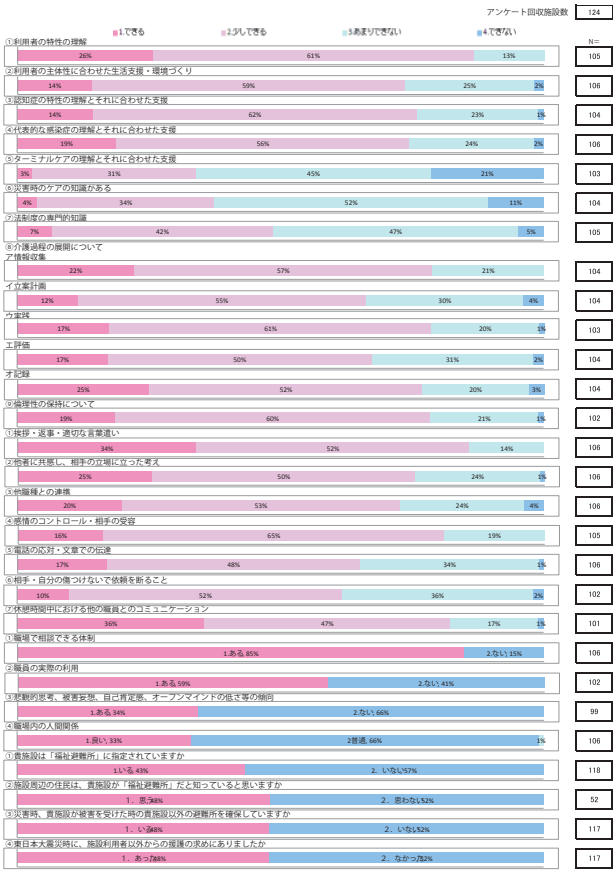
2　調査結果

聞き取り調査状況は以下のようであった。

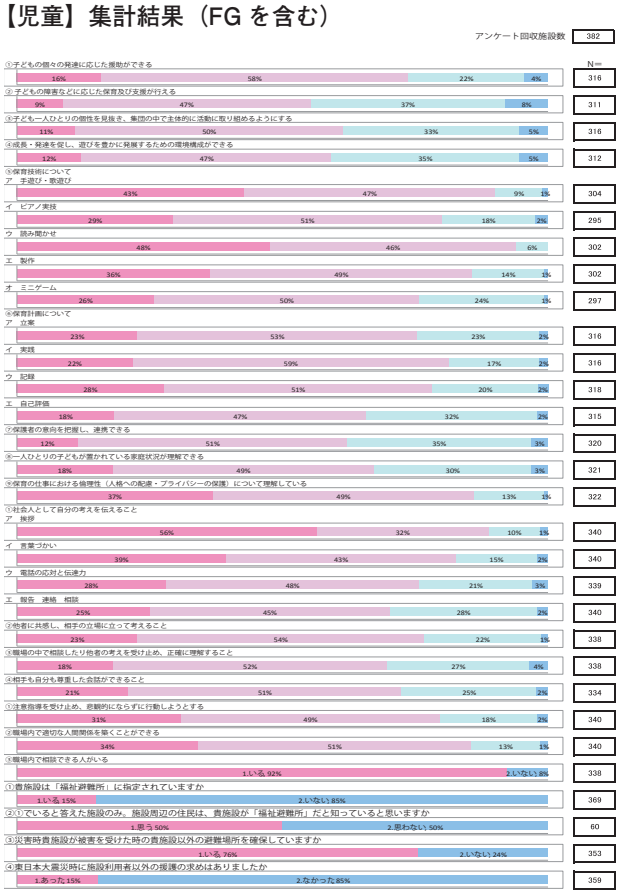
	協会団体名	会員施設数	訪問済	FAX・郵送回収
地域	千葉県老人保健施設協議会	126	22	5
	千葉市老人福祉施設協議会	43	7	1
	千葉県高齢者福祉施設協会	279	60	12
	千葉県福祉医療施設協議会	38	2	2
	千葉県身体障害者施設協議会	20	12	1
	合　　計	506	103	21
児童	千葉県児童福祉施設協議会	43	12	1
	千葉県知的障害者福祉協会	198	69	12
	千葉県保育協議会	648	134	29
	千葉市保育協議会	112	26	1
	全千葉県私立幼稚園連合会	333	52	26
	千葉市幼稚園協会	82	22	4
	合　　計	1,416	315	73
全体合計		1,922	418	94

【地域】老人施設　過去２、３年卒業生

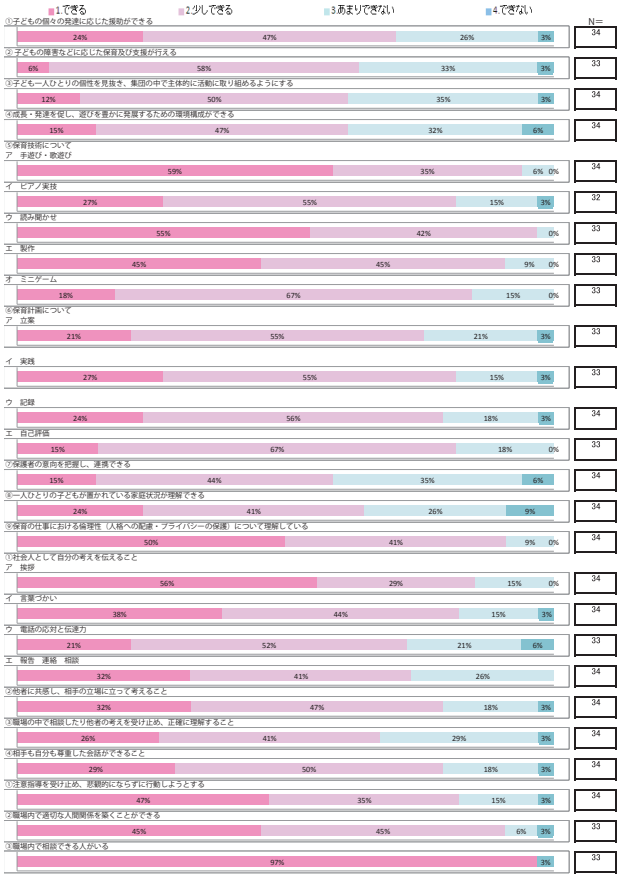
【地域（A～E、G）】老人施設　集計結果



【児童】集計結果（FG を含む）



【児童】過去２、３年卒業生



１）「地域」の調査結果

ほとんどの質問項目において、「できる」+「少しできる」が50％を超えていた。

「できない」+「あまりできない」が50％を超える項目は、施設全体で「ターミナルケアの理解とそれに合わせた支援」（66％）「災害時のケアの知識」（63％）「法制度の専門的知識」（52％）であった。また、本学卒業生の就業先施設を抽出してみると、「ターミナルケアの理解とそれに合わせた支援」（55％）「災害時のケアの知識」（63％）「法制度の専門的知識」（50％）であり、同じ傾向が見られている。また、「できない」+「あまりできない」が25％を超えた項目について以下に記す。

・専門力

「できない」+「あまりできない」が25％を超えたのは、施設全体では、「利用者の主体性に合わせた生活支援・環境づくり」（27％）「代表的な感染症の理解とそれに合わせた支援」（26％）「ターミナルケアの理解とそれに合わせた支援」（66％）「災害時のケアの知識」（63％）「法制度の専門的知識」（52％）「介護過程の展開：立案計画」（34％）「介護過程の展開：評価」（33％）、本学卒業生の就職先施設では、「利用者の主体性に合わせた生活支援・環境づくり」（28％）「認知症の特性の理解とそれに合わせた支援」（33％）「代表的な感染症の理解とそれに合わせた支援」（34％）「ターミナルケアの理解とそれに合わせた支援（55％）「災害時のケアの知識」（72％）「法制度の専門的知識」（50％）「介護過程の展開：立案計画」（44％）「介護過程の展開：評価」（33％）「倫理性の保持」（33％）であった。

「できない」+「あまりできない」が25％を超えた項目について、施設全体での自由記述を見ると、「利用者の主体性に合わせた生活支援・環境づくり」では、「主体性に欠ける」「訴えられない利用者の気持ちに気づかなければいけない」、「代表的な感染症の理解とそれに合わせた支援」では「知識はあるが対応、動きができないので支援が必要」、「ターミナルケアの理解とそれに合わせた支援」では、「ターミナルケアはやっていない」「机上での学びはあっても実際にその場面での対応は難しいと感じる。重要性をきちんと教えてほしい」、「災害時のケアの知識」では、「防災担当者の指示に従う受け身である」、

「法制度の専門的知識」では、「介護保険法・高齢障害者、虐待防止法は詳しく教えてほしい」、「介護過程の展開：立案計画」「介過程の展開：評価」では「文章を書くのが苦手」、とする自由記述が見られた。

・コミュニケーション能力

「できない」+「あまりできない」が25％を超えたのは、施設全体では、「他者に共感し相手の立場に立った考え」（25％）「他職種との連携」（28％）「電話の応対・文章での伝達」（33％）「相手・自分を傷つけないで依頼を断る」（38％）、本学卒業生の就職先施設では、「相手・自分を傷つけないで依頼を断る」（39％）の１項目が25％を越えていた。

「できない」+「あまりできない」が25％を超えた項目について、施設全体での自由記述を見ると、「他者に共感し相手の立場に立った考え」では「人の気持ちを読むことが下手。コミュニケーションが下手」、「他職種との連携」では「看護師等との関わりが少ない」、「電話の応対・文章での伝達」では「家族との電話対応で的を得た話が出来ない」、「相手・自分を傷つけないで依頼を断る」では「自分の意見を言えない。先輩たちの摩擦が怖い」とする自由記述が見られた。

・ストレスコントロール力

「悲観的思考、被害妄想、自己肯定感、オープンマインドの低さ等の傾向」が「ある」との回答が施設全体では34％、本学卒業生の就職先施設でも34％であった。施設全体での自由記述を見ると、「悲観的思考、被害妄想、自己肯定感、オープンマインドの低さ等の傾向」で「ストレスには弱い。先輩も何に困っているのか把握できない」とする自由記述が見られた。

２）「児童」の調査結果

全ての質問項目において、「できる」+「少しできる」が50％を超えていた。

このため、「できない」+「あまりできない」が25％を超えた項目について以下に記す。

・専門力

「できない」+「あまりできない」が25％を超えたのは、施設全体では、「子どもの障害等に応じた保育及び支援」（45％）、「成長・発達を促し、遊びを豊かに発展するための環境構成」（40％）、「一人ひとりの個性を見抜き、集団の中で主体的に活動に取り組めるようにする」と「保護者の意向を把握し、連携する」が共に（38％）、「保育計画」の中の「自己評価」（34％）、「一人ひとりの置かれている家庭状況の把握」（33％）、「子どもの個々の発達に応じた援助」（26％）、「保育計画」の中の「立案」と「保育技術」の中の「ミニゲーム」が共に（25％）であった。また本学卒業生就職先施設では、「保護者の意向を把握し、連携する」（41％）、「一人ひとりの個性を見抜き集団の中で主体的に活動に取り組めるようにする」、「成長・発達を促し、遊びを豊かに発展するための環境構成」が共に（38％）、「子どもの障害等に応じた保育及び支援」（36％）、「一人ひとりの子どもが置かれている家庭状況の理解」（35％）、「子どもの個々の発達に応じた援助」（29％）であった。

「できない」+「あまりできない」が25％を超えた項目について、施設全体での自由記述を見ると、「保護者の意向を把握し、連携する」では、「安心感を与える会話」「連絡帳の読解力と、保護者と向き合った時相手を知る力がほしい」、「成長・発達を促し、遊びを豊かに発展するための環境構成」では、「環境の意味合いを学んでほしい」「創意工夫しようとする意欲に欠ける」、「一人ひとりの個性を見抜き、集団の中で主体的に活動に取り組めるようにする」では、「個々の育ちを受けとめる視点や価値観を育ててほしい」「子どもが主体的に取り組む場を想定することが難しい」、「子どもの障害等に応じた保育及び支援」では、「障害児の特徴に応じた支援ができない」、「一人ひとりの置かれている家庭状況の把握」では、「家庭状況を把握しきれない」「保護者支援・地域支援が求められている中で、保育士としてどんな心構えを持つべきか考えてほしい」、「子どもの個々の発達に応じた援助」では、「子ども一人ひとりのタイプを見抜く力の訓練」や「乳幼児の発達段階を理解しておく」などであった。

・コミュニケーション能力

「できない」+「あまりできない」が25％を超えたのは、施設全体では、「職場の中で相談したり、他者の考えを受け止め、正確に理解すること」（31％）、「報告、連絡、相談」（30％）、「相手も自分をも尊重した会話」（27％）であった。また本学卒業生就職先施設では、「職場の中で相談したり、他者の考えを受け止め、正確に理解すること」（32％）、「電

話の対応と伝達力」(27％)、「報告、連絡、相談」(26％）であった。

施設全体での自由記述を見ると、「職場の中で相談したり、他者の考えを受けとめ、正確に理解すること」では、「自分から分からないことを相談しようとしない」、「電話の対応と伝達力」では「電話のマナーができていない（言葉遣い・要件や相手の名前を確認)、「報告、連絡、相談」では「人としてのコミュニケーション力の低下」「整理して話せない」などであった。

・ストレスコントロール力

質問は、３項目であったが、「あまりできない」+「できない」が、25％を超えるものはなかった。

３　考察

子どもや高齢者、障害者は社会的弱者といわれ、その方々に関る職業として「地域」も「児童」も専門的な知識・技術が求められている。就業先が新人職員に対してどの程度の専門的能力を求めているのか、求めるものと最近の新人職員の実際とのギャップはどうすれば埋められるのか、教育界と産業界が情報の交換をし、職業社会に適応できる人材の育成が望まれている。また、本学卒業生の就く職業は対人間関係の仕事であり、就業先としては専門知識と同時に人間関係を円滑にする能力を求めているといえる。

今回の聞き取り調査で「できない」「ややできない」の合計が50％を越えたものは地域関係の専門力の分野３項目であった。ターミナルケアや認知症の理解、法制度の理解は日常生活から自然に身につく知識ではなく専門的に学ぶ必要のある項目である。経験だけで理解できるものではなく、介護福祉士として望まれる専門性であると考えられる。

さらに、専門力の中で25％を越えたところをみると「利用者の主体性に合わせた生活支援・環境づくり」が施設全体、本学卒業生の就職先施設ともに不得意とされた。「児童」でも施設全体、本学卒業生の就職先施設ともに、「子どもの障害等に応じた保育及び支援」、「成長・発達を促し、遊びを豊かに発展するための環境構成」、「一人ひとりの個性を見抜き、集団の中で主体的に活動に取り組めるようにする」、「保護者の意向を把握し、連携する」が不得意とされた。自由記述からは、「会話力」「読解力」「相手を知る力」、「環境の意味合いを知る力」「創意工夫しようとする意欲」、「一人ひとりの個性を見抜く力」、「個々の育ちを受けとめる視点や価値観」が必要とされた。

また、対人関係の職種につく場合、人間関係を構築することが不可欠である。人間関係の構築に係る事項としては、この結果、コミュニケーション能力が求められているといえるが、さらに、相手の立場に立った考えができ、多職種と情報交換をし、その方法としての伝達手段と相手を尊重する話し方を知っていることが必要とされる。さらに、「児童」では、前述の内容から、専門力に裏付けられたコミュニケーション力が、必要とされていることが分かる。

しかし、新人職員のうち特に「地域」では、「悲観的思考、被害妄想、自己肯定感、オープンマインドの低さ等の傾向」が「ある」との回答が施設全体、本学卒業生の就職先施設でも多く見られた。「ストレスには弱い。先輩も何に困っているのか把握できない」とする自由記述が見られた。人の気持ちを読み取ることが下手であるとともに、うまくコミュニケーションをとれず、自分の気持ちを分かってもらえず、また依頼を断れないで自分自身を追い込んでいる様子が窺える。すなわち、コミュニケーション力不足は、ストレスコントロール力の低さにもつながっていると考えられる。

コミュニケーション力、ストレスコントロール力は社会人基礎力として必要とされる力であるが、福祉分野においては、さらに「障害や高齢という一人ひとりの特性や環境に応じた支援の必要性を知り行う力」という専門性を備えた職業能力が求められていると言える。これらを如何に教育機関が養成していくことができるかが、今後に課せられた課題である。

なお、今回の調査結果は産業界側からのみのヒアリングの結果であり、新人職員自身が自己能力をどのように考えているかは把握していない。今後、学生や卒業生等からも同様の調査を行うことで、さらに考察を深めていきたい。

参考文献

１）今井訓子他（2013)「卒業生への就業継続支援に関する調査研究」植草学園短期大学紀要

２）介護労安定センター（2011)「平成23年度　介護労働実態調査」